

タイムスタンプ	1.年齢	2.所属職場	3.職場	4.講義Ⅰ「看取り介護プロジェクトの経緯」 【感想や良かった点、学びになったこと】	講義Ⅱ「看取り介護の基礎知識等」 【感想や良かった点、学びになったこと】	講義Ⅲ「看取り介護の具体的な方法等」 【感想や良かった点、学びになったこと】	5.研修に関して 【ご意見・ご要望など】
2/6/2025 17:34:21	40代	小規模多機能事業所	介護職	終末期に対しての不安が少なくなりました。	自分自身の支援の向かう先が具体的に離れました。	今後の支援の中で、介護だけでなく、どうすればご本人らしく出来るかを意識出来ました。	
2/7/2025 0:57:39	20代	小規模特別養護老人ホーム	介護職	日本の高齢化社会が進む中、終末期を迎える方々に対する質の高いケアが求められていますが、看取り介護は単に医療的なケアだけでなく、心理的、社会的、そして文化的な側面を含んだ多面的な支援が必要だと思いました。	心身の状態に応じた柔軟な対応と、家族への心理的支援も大切で、全体的に温かく、安心できる環境作りが重要だと感じました。	看取り介護は非常に心温まる一方で、時に辛い選択や感情を伴うものです。患者さんの最後の瞬間に寄り添うことは、介護者にとっても大きな意味があり、心に残る経験となります。また、家族にとっても重要な時間であり、共に過ごすことで得られる絆や感謝の気持ちが、介護の意義を深めると思います。	
2/7/2025 11:25:52	50代	特別養護老人ホーム	介護職	住み慣れた地域で最期を迎えることが選択できる医療と介護の連携した体制の構築が必要であると改めて思いました。	自身の意思決定の出来る時にリビングウィルやエンディングノートの記録をしておく必要があることを利用者との信頼関係を築きながら確認していきたいと思いました。	看取り介護を行う中で対象利用者の人生最後のステージを支援する方法を支援者が様々なエピソードを共有していく必要があると思いました。	研修を受講させて頂き、これからの看取り介護に携わる際に活かしていきたいと思いました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
2/7/2025 11:51:00	50代	介護医療院	介護支援専門員	まず、日本人特有の「死を口にするのは縁起が悪い」などのタブー感の改善から必要と思う	介護職が主体となって学ぶ機会を作っていきたい	職種ごとの役割をきちんと果たすことが重要だと感じた	講師の熱い思いが強く伝わりました。ありがとうございました
2/7/2025 13:12:13	40代	介護老人保健施設	相談員				講師の方の事例を用いた話がとても分かりやすかった。施設の看護職や介護職にも参加してもらえればよかったと感じた。
2/7/2025 14:29:40	50代	グループホーム	介護職	看取り介護の考え方を初めて知りました。講義の最中に看取り対象の方がおられたのですが、もっと出来る事があったのではないかと考えさせられました。今おられる利用者様への対応を心に寄り添い行って行こうと思っています。	看取り介護の基本とは日常のケアの延長線上にあり、命の期限を見据えて真摯に関わりたいと思います。	現状で皆で出来得る事がもっとあるのではないかと、カンファレンスを行いあきらめない介護を目指したいと思っています。	看取り介護の講義意外でも、まだまだ知らない事や知らずに行っていたこと等があるように思います。様々な事を教えて頂き、心の通った介護の在り方をもっと学びたいと思います。
2/7/2025 17:17:48	50代	短期入所事業所	介護職	「どこで、誰に看取られ、どのような最期を迎えたいか」1回ではなく何度かに分けても良いので本人様、家族様と希望を聞き本人様の意向に沿えるように看取りケアをしようと思う。	看取り介護になってもいつもと変わらずケアをする。多職種と連携を取り寄り添う。命はリレーされる。命のバトンリレーを支援するための看取りケア。	看取り介護計画書の作成、医師、ケアマネ、家族との連携。看取り介護加算等の算定	この研修で勉強になったことは日頃からの利用者、家族とのコミュニケーション。利用者本意を大切に寄り添うこと。次はグループケアの研修を受けてみたいです。
2/7/2025 21:37:39	20代	特別養護老人ホーム	介護職	分かりやすかった	その人らしく生きることが出来る支援。印象に残った。	実際の話聞いて良かった	とてもいい研修に参加できてよかった
2/7/2025 21:47:18	50代	特別養護老人ホーム	介護職	今まであいまいであったことが学べた。	必要な手順を学べた。	具体例の紹介により共感しながら、自身の行動を振り返ることができた。	特にありません。
2/8/2025 10:57:49	20代	介護老人保健施設	介護職	京都府が実際に行っている看取り介護プロジェクトについて知る事が出来た。acpが広く伝われば多くの方が望む最期の生活を叶えることができ、私たちも何かあった時にあせる事がなく思いに寄り添った介護が実現できると思いました。acpという言葉や簡単な意味は知っていたが具体的にどのようなかわり方をすればよいのか話し合いをすれば良いのか知れて学びになりました。	今回の研修内容にもあった「命のバトンリレーを支援するための看取り」が心に刺さりました。施設で亡くられる方を最期まで看取る私たちが家族に対して出来る事はその方が最期どんな話をされどのような物を好まれていたのか亡くなる直前までのエピソードを伝え家族にバトンを繋げる事なんだと実感しました。その為にも普段からご利用者様との信頼関係を築いていくことが求められると思いました。	終末期と言われる段階になると個室にて出来る限り臥床して安楽に過ごしていただき他利用者との関りのない生活というイメージをもっていたが、その方の望む生活を出来る限り実現しレクリエーションに参加したりご飯を食べられなくても出来るがあるのだという事を学びました。出来ないことよりも出来る事を考えるのが専門職であるということ普段の仕事で意識していきたいです。その為にもご本人や家族のニーズに併せ多職種との連携が大事になると思います。	
2/8/2025 18:20:20	20代	特別養護老人ホーム	介護職	看取り介護プロジェクトの取り組み内容を詳しく知ることができ、介護の仕事をしていく上で、自身も明確な目標を再確認することができた。	基礎知識を学んだ上で「もっとこうすればよりよい介護ができるのでは？」というアイデアや業務に対する誠実さを感じる事ができた。	色々な看取りの方法を知り、自身が働いている施設でももっと利用者の感じる思いをくみ取ってよりよい施設に、そして良い施設だと思っただけのように自分も力になりたいと思った。	自分がまだ経験していない看取りの方法で具体例を知識として学ぶことができました。ありがとうございました。
2/9/2025 0:06:41	50代	グループホーム	介護職	高齢化の現状や看取りの現状、そして以前は最期を在宅等で迎える事を希望される方が増え、また実際に医療機関以外で最後画を迎える方が増えている現状を知る事ができました。更に京都府では京都地域包括ケア推進機構の設置や看取り対策プロジェクトがある事をしりました。	看取り介護とは命のバトンリレーのお手伝いをする。と言われたのがとても印象的で、今まで看取り期の入居者様が居られた時、もし自分が家族様に連絡するのが遅くて最期の時に間に合わなかったらどうしようとか、申し訳ないとおもっていましたが、研修の中で最期の時の状況をきちんと伝えることで、命のバトンを渡す事が出来ると学び、自身でもその時にはしっかり状況を伝えたいです。また看取り介護とは最期の瞬間まで尊厳を持ちと同時に生きる喜びを感じることが出来ることを信じて、そうした生き方を支える介護であり、日常介護の延長線上にあるのが看取り介護でごく普通にあるものと考えられるべきであると学びました。特別な介護ではな厭う事もしっかり覚えておきたいです。看取り介護計画の作成。看取り介護終了後のカンファレンスの重要性も学ぶ事ができました。	看取り介護の実践的なお話しを聞く事ができ、前回にも学びましたが、決して特別なケアではない事、最期まで尊厳ある個人として、その人らしく生きることが出来る支援、安心して安楽に過ごす事が出来る支援をすることであるとしっかりこころにきざんであるとしっかり心に刻んで看取り介護だけではなく、日々のケアに励みたいと思います。自分も人と人が最後までつながり、大切なエピソードを作るお手伝いがしたいです。	
2/9/2025 0:08:26	30代	看護小規模多機能型居宅介護事業所	介護職	ACPというものがあるという事とその大切さが学べました。	「見捨て死」というものがあるという現状と、そうさせない為どういう事を行っていくのが分かりました。	「看取り介護」は特別なものではなく、人に寄り添う為の普段の介護の延長線である事が分かりました。	

2/9/2025 9:16:31	20代	養護老人ホーム	介護職	ACPIについて学べてよかった。	今後も見捨て死にならないように一人ひとりにあったターミナルケアをしていかなければならないと改めて思いました。	グリーンケアがそもそも要らない看取りができればよいという考え方が学びになりました。	
2/9/2025 12:05:51	30代	特別養護老人ホーム	相談員	経緯の話をきいて、看取り=死期は近いというネガティブなイメージであったが、その人らしくその時を迎えるためときいて前向きにとらえるものだと思います、その人にとって良い取り組みだと感じた。	その人らしく、と言う言葉が印象的でした。ACPのことも知らなかったことで、勉強になりました。生前元気なうちに準備しておくこと、家族も心構えしていくことで、自然な流れで最期を迎えられると思った。	看取り介護に入る段階でどのようにしてケアを続けていきたいか、利用者の生活の背景や家族関係も共有して職員間で共通認識を持ってケアする事は難しいことのように、その人らしくケアするためには当たり前のことであると学び、今後の看取り介護に携わっていくために大切なことを学びました。	
2/9/2025 16:27:41	40代	特別養護老人ホーム	生活相談員		基礎知識を実践含めてお伝えいただいたことで、大変イメージしやすかった。「寄り添う」ことの意味が理解できた。	具体的な実践例が当方の都合で十分に拝聴できずに非常に残念でした。その分子量を充実していただいているので熟読したいと思います。	
2/9/2025 17:33:37	20代	特別養護老人ホーム	介護職	看取りに対して正しい知識や対応が分からず不安を感じる職員がいると考えるため、自身が学びを得ることで、他の職員にも共有することができると感じています。	看取り介護に対して、特別な対応は必要なく、日常生活の延長線にあることを学び、自身が看取り介護の対応や考え方を再確認することができました。	看取りにより食事や活動の機会が難しいご利用者に対しても、出来る出来ないかをチームで模索していくことを学びました。	知識や知見を深めるだけでなく、自身の介護に対する考えとの違いを知ることができました。
2/9/2025 21:47:41	20代	有料老人ホーム	介護職	看取りの場が多様化し、施設や在宅でも質の高いケアが求められ、地域全体で支える体制を整える必要がある。	看取り介護の質を向上させるには「日常のケアの延長線上に看取りがある」「家族との関わり」「他職種連携」といった視点が重要であると再認識できた。	介護職員として、居室内の環境を整えることを今後意識していきたい。写真を飾ったり、誰でも来やすいようにスペースを作るなど、家族にも安心感を与えられるようにしたい。	実践的な内容が多く、現場で活かしやすと感じた。
2/10/2025 8:47:06	60代	介護老人保健施設	介護職	時代と共に必要が変わっていく、新しい知識は常に必要だと思いました	まったくの初めてのこともあり、ついていくのに一生懸命でした	昨年に続き体調不良で学習できませんでした	初日に停電、2日目に体調不良と自身の運の無さを感じました、ご迷惑をおかけして申し訳ありません、
2/10/2025 10:34:44	20代	特別養護老人ホーム	介護職	看取り介護について理解が深まった。	実際の事例を用いて説明して下さったおかげでイメージが膨らんだ。	介護職として終末期の方とどのように関わったら良いか学んだ。	
2/10/2025 10:47:32	40代	特別養護老人ホーム	医療職	京都府の現状、看取りに対してのプロセスを知ることができて良かった。	看取りケアを特別に考えることなく、日頃の生活の延長であることと、看取り後の振り返りの大切さを改めて感じた。	看取りに対する意識や対応が参考になった。感染状況のこともありながら工夫しながら対応しているのは良かった。最期まで「その人らしさ」を意識することが大切だとわかった。	
2/10/2025 16:10:18	20代	養護老人ホーム	事務職	高齢者社会の現状とこれからの見立てが知れてよかった。	今持つてる看取りへの認識とはまた違う考えを知れてよかった。	1人を看取る為にできる事はたくさんあってたくさんの方の関わりが大切であると知った。	研修を実施して頂きありがとうございます。ご自身の看取りの経験を教えて頂けて1人1人のケースが色んな看取り方があると知ることが出来ました。同じ看取りはできませんが、1人と向き合って最善を尽くしていきたいと思えます。
2/10/2025 17:11:32	40代	小規模多機能事業所	医療職	現状を理解することができた。	ACPIについての再確認が出来た。	本人や家族の想いにそった支援を行う事が、その人らしい人生を生きることにつながる。	グループワークがあってもよかったのではないかな。
2/11/2025 10:21:07	40代	特別養護老人ホーム	介護職	看取りに対して、国や都道府県で施策をされている事を知れて良かったです。看取りを含んだ「人生計画」というものをしっかり制作し、その方らしい人生、最期を迎えるという方法に共感しました。	看取りに関して、どうしても特別な事として考えていたのですが、先生の「看取りは特別な事でも医療的な物でもなく、当たり前の介護である」という言葉に、とても勇気づけられました。自分がどうされたいかを考え、それを利用者様、ご家族に行う。それを心に刻んで、今後も支援をしていきたいと思えます。	非常に具体的な話、踏み込んだ話をして頂いたと有難く思いました。終末期において、点滴をするから痰が出るという話等は目からウロコでした。また、亡くなる前日にレクリエーションに参加された話、百歳のお祝いを早められた話等、全く同じようには難しいかもしれませんが、利用者様・ご家族が納得して頂ける看取りが出来るよう、日々考えていきたいと思えます。	最後の先生の紹介動画も、とても良かったです。
2/11/2025 11:04:40	20代	特別養護老人ホーム	介護職	看取り介護プロジェクトの目的や意義について学ぶことが出来て良かったです。	見捨て死について学ぶことが出来て良かったです。	適切な看取り介護、ご利用者、ご家族と向き合う姿勢について学ぶことが出来て良かったです。	
2/11/2025 16:45:06	50代	養護老人ホーム	事務職	本人の意思が家族や医療・ケアチームと共有されておらず本人の意思を反映した医療・ケアが十分に提供できない場合がある。自分がどのような医療を受けたいのか（受けたくないのか）どこで人生の最終段階を過ごしたいか希望や考えを明らかにしていくための話し合い（ACP）を繰り返し行うことが大切。	看取り介護とは特別なケアではなく日常介護の延長線上にあるものであり、日ごろの介護の質を高める努力をしなければよりよい看取り介護にはつながらないと分かった。	施設はご自宅の延長線上にあり、ご本人とご家族がつながりを持ち続けられ、職員がご家族の思い出作りを支援させて頂くのだと改めて思った。最期の瞬間に間に合わなかったご家族には最期の瞬間を看取った職員がその時のご様子を必ずご家族へ繋げるよう記録やメモをとっておき伝えることがご家族のその後の人生にも重要になる。この研修を通して今まで以上に家族に連絡・相談しながら一緒に支援していければと思った。	今までの支援について振り返り今後のよりよい支援に少しでも繋げていけたらと改めて思いました。
2/15/2025 23:34:29	50代	グループホーム	介護職	高齢化の現状や京都の取り組みを知れて良かった	「看取り」と聞くと何か特別な介護と捉えがちだが、普段の介護の延長線にあることが理解できた。また「看取る」介護が出来る為には、普段の介護への取り組みが大切なのも理解できた。	具体例をいくつも挙げてもらい参考になりましたし、自分達の施設で何が出来るか、考えるきっかけになりました	具体的な例をもっと知りたいと思いました。